



# 昼

青松と言えないこともない。言わしておくれオッカサン！  
食は六子井である。だが一九〇〇円する。観光地の食い物にダガもククリもないのだが、メニューではうどんを推しておる。きつねうどん七〇〇円、肉うどん八〇〇円。これにミニ六子井が七〇〇円というのである。思わず他所のお膳、一九〇〇円の六子井を探してしまふ。一九〇〇円でのサイズということ、七〇〇円だと7/19サイズなんじゃろうか。それにしても、一杯の六子井よりもうどんセットの方がお得なのである。両方食べてればいいじゃない。他、焼き牡蠣なども置いてあるのである。焼き牡蠣は全島統一して一個二〇〇円である。

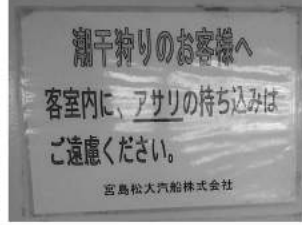
# 結

結論として、六割くらいのサイズの六子井が来たのであった。ナニソレ、ドーナツ。「うどん食えうどん」という遠巻きなメッセージだと理解してよろしおすか。

# そ

その後、猿回しなどをしているお寺などを巡って帰

途である。猿回しの会場の背後には、※原文ママ大道芸は御一人様100円200円のお気持ちでやっていきます。ヨロシク！とある。大道芸でも百円から二百円くらいのやる気で、という明確な料金設定である。高野山に行ったときに「法要は五万円からです」と言われた時のことを思い出す。清々しい！



↑フェリー内の張り紙。単純に食中毒がらみなのであるが、「だったらデッキなら良いのか、過去に何かあったのか」と訊いてみたくなる切実さがある。やっぱりない。

# か

くして厳島神社を参拝し、損ねた我々であったが、縁あって翌日、御調八満宮というところで厳島神社の社と対面したのであった。御調、ミツギと読む。尾道の奥に広がる山の中にある広い神社で、和氣広虫が祀られておる。和氣清麻呂の姉である。京都から配流されてきてここに神社を建立したそうである。その辺の話と厳島神社がどういう関係にあるのかはちよつとも

# う

ろ覚えの知識をネットで補強するいつものパターンであるが、神社というのは分社しても分社しても同じ神様である。つまり、宮島の厳島神社も御調の厳島神社も、露骨な言い方をしてしまえば「窓口が別なだけで届く先は一緒」だそうである。極論を言えば、自宅に神棚を作り、そこを「厳島神社」としてしまえば厳島神社にすることができる。これ、アレですよ。コンピューターとソフトウェアの関係に近いものがある。

# し

かもアレよ、元々は厳島神社も宗像神社の分社なんだそうですよオクサマ。宗像神社は福岡県にある。同じく宗像三女神を祀つてある。



↑和氣清麻呂を祀つた和氣神社は裏手にひっそりと。

# と

も参拝出来たのである。近くの小川から地下水が染み出しているらしく足元はぐつちやんぐつちやんである。がこのくらいでめげてならぬ。その割にはさらに奥にあった和氣神社の写真ばかり掲載している。だって厳島神社自体は地味なんだもん。



和氣神社を守るのは全国でも珍しい狛犬ならぬ狛猪。どっちが阿でどっちが吽ということもない感じではあるが、台座にはなんらか書いてある以上、きつとどちらかの区別はあるだろう。正月の陽光に職務放棄しちゃったようないい顔をして座っておる。右の狛猪は鼻つまつとんのか。



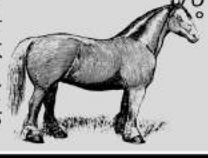
## 新刊のおしらせ

・宇田川豪大第4戯曲集『耳栓』がたぶんもうそろそろ刊行されると思いますが、結構延刊する傾向があるので、まーた延びてしまふかもしれません。詳細は版元のV2ソリューションさんのウェブサイトをご確認ください。たぶんAmazonよりも早く情報が出ると思います。前回の戯曲集『ばんぴー』に引き続き「委ねへの戦慄」というタイトルで解説を書かせていただきました。

## バックナンバーはこちら

弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイト <http://sbew.web.fc2.com/atari/> からご覧いただけます。サーバーに1M以内のファイルしか置けないため、ファイルの圧縮調整にずいぶん骨を折っております。今号は写真が多いから大丈夫かしらん。

うまどし



といった次第で、今号は以上。